

第6回福岡空港調査P I有識者委員会

(議事録)

日時 平成18年12月8日(金) 14:00~15:40

場所 ホテル モントレ ラ・スール福岡 2階「ヌーヴォ」

出席者

(1)委員(五十音順)

(委員長)筑波大学社会工学系教授	石田 東生
西日本新聞社特別顧問	杉尾 政博
公認会計士	土井良 延英
弁護士	山本 智子

(2)福岡空港調査連絡調整会議からの出席者

・福岡空港調査連絡調整会議幹事

国土交通省九州地方整備局港湾空港部長	鈴木 勝
国土交通省大阪航空局飛行場部長	八鍬 隆
福岡県企画振興部理事兼空港対策局長	西村 典明
(代理出席：福岡県空港計画課企画監	神谷 龍治)
福岡市総務企画局理事	岩瀬 信一郎

開 会

事務局

それでは、定刻になりましたので、ただいまより第6回福岡空港調査P I有識者委員会を開催いたします。私は、福岡市の土井と申します。本委員会の事務局を担当しております。

本委員会は5名の委員により、構成されておりますが、本日は神戸大学工学部助教授の竹林委員が所用のため、欠席となっております。竹林委員につきましては、今回の議題につきまして、あらかじめ見解をまとめたメモを提出していただいております。後ほど、議事の中で紹介させていただくことになります。

なお、本日は福岡空港調査連絡調整会議の幹事の方に出席いただいております。

す。なお、前回の本委員会の開催後、連絡調整会議の幹事が変更になっておりますので、ご紹介いたします。委員の皆様方から見まして、左端から国土交通省九州地方整備局鈴木港湾空港部長でございます。

鈴木部長

鈴木と申します。

事務局

続きまして、国土交通省大阪航空局の八鍬飛行場部長でございます。

八鍬部長

八鍬でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

次に、右端になりますが、福岡市の総務企画局岩瀬理事でございます。

岩瀬理事

岩瀬でございます。よろしくお願いいたします。

事務局

また、本日、福岡県の西村空港対策局長は、所用のためご欠席でございます。福岡県の空港計画課の神谷企画官が代理で出席されております。

神谷企画監

神谷でございます。よろしくお願いいたします。

事務局

また、本委員会は市民の方の傍聴をいただいておりますが、本日は32名の方が来場されておられますので、ご紹介いたします。

ここで、マスコミの方にあらかじめ申し上げますが、議事進行の関係でテレ

び、カメラ等の撮影は、P Iの実施状況把握に関する報告事項の説明までとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

これより議事に入りますが、議事運営は規約により、委員長が行うことになっておりますので、以後、石田委員長よろしくお願いいたします。

議 事

石田委員長

たくさん傍聴に来ていただきましてありがとうございます。

早速、議事に入らせていただきます。

本日予定しております議事内容は、最初に報告事項といたしまして、ステップ2のパブリック・インボルブメントについて、前回委員会で各委員にお願いいたしました実施状況の結果報告を本委員会の事務局から説明をいただいて、その後に審議事項としてステップ2のP Iの評価についてお諮りしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

まず報告事項でございます。福岡空港調査P Iステップ2、「地域の将来像と福岡空港の役割」、「将来の航空需要の予測」ということでございましたけれども、実施段階における監視の結果について、事務局より説明をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局

事務局であります福岡市の馬場でございます。よろしくお願いいたします。

まず、説明に入ります前に資料の確認をお願いしたいと思います。お手元に上のほうから順に配付資料一覧、次第、それから出席者名簿、座席表以上1枚ずつあるかと思います。それから、資料1といたしまして、「P I実施段階における監視（実施状況把握）の結果について」と題した資料がございます。そして、資料2の1といたしまして、福岡空港調査連絡調整会議から提出されました「福岡空港の総合的な調査に係るP I（ステップ2）実施報告書」がございます。それから、ファイルした資料があるかと思いますけれども、これが資料2の2実施報告書の参考資料でございます。それとまた、添付資料といたしまして以前この委員会で審議していただきまして既に確認された内容ではござい

ますけれども、本日の審議に関連いたしますのでお配りしておりますが、「P I 実施結果に関する評価のあり方について」という1枚ものの資料をお配りしております。それと最後に、本日欠席されております竹林委員から提出されましたご意見のメモがございます。

以上、ご確認のほどお願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、報告事項でございます「P I 実施段階における監視（実施状況把握）の結果について」資料1に基づきまして説明させていただきます。

P I ステップ2の実施前に本委員会で確認されたとおり、本委員会の監視活動につきましては、ステップ1のときと同様に各委員に個別かつ任意に各種のP I イベントに赴いていただきまして、その状況を見ていただき所見やアドバイスを記した実施状況レポートというものを提出していただいております。その活動実績について、整理いたしております。

まず、(1)の実施状況把握の一覧でございますけれども、この表では日時の順に実施状況把握の状況をまとめております。今回は計13回のイベントにつきまして延べ16名の委員に見ていただいております。表の一番下にイベント別の回数を整理いたしておりますけれども、イベントの種類といたしましては、説明会ほか6種類のイベントをみていただいております。このうち、ステップ1でも実施いたしました説明会、懇談会、オープンハウスにつきまして延べ12名の委員に見ていただいたのに加えまして、今回ステップ2で新たに行いましたパネル展示、グループヒアリング、シンポジウムにつきまして、延べ4名の委員に実施状況把握をしていただいております。この表にありますとおり、イベントの種類や見ていただいた場所もさまざまございまして、本委員会といたしましては、機動的かつ全般的にP I の実施状況を把握できたものと考えております。各委員の皆様にはお忙しい中ご足労いただきまして、ありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

それぞれの実施状況把握の場における所見とアドバイスにつきましては、この資料の3枚目以降、別紙1から15までの実施状況レポートの中で各委員からきめ細かくご意見をいただいております。ここで失礼ながら幾分おおくりに紹介させていただきますと、複数のレポートの中でいただいたご意見といた

しましては、ステップ1での助言の反映や改良が見られた。あるいは今回新たに行ったイベントについて評価できるのではないか。活発な議論があった。雰囲気づくりが良かった。それから、説明や展示がわかりやすかった。それから、場所の設定などがよかった。こういった評価をいただいた一方で、説明会や懇談会の参加者の構成をもっと多様にできないか。あるいは、ポイントを絞った説明やテーマごとに議論を進める工夫が必要ではないか。あるいは、アピール力をさらに発揮できる展示の工夫をしてはどうか。さらにはP Iの本質であります双方向性、ダイナミックさが弱いなどのご意見をいただいております。これらいただきました実施状況レポートにつきましては、P Iの実施期間中に福岡空港調査連絡調整会議に通知をいたしまして、対応を求めたところでございます。また、実施状況レポートは委員相互の情報共有、あるいは市民への情報提供を行うため、福岡空港調査P I有識者委員会のホームページに掲載いたしております。

最後にこれらの資料の取り扱いでございますが、本日の審議結果を受けまして本委員会の活動報告として作成する予定でございますP I評価書、これに添付いたしたいと考えております。資料1についてのご説明は以上でございます。

事務局

ここでマスコミの方に申し上げます。

テレビ、カメラ等の撮影は、ここまででよろしく願いいたします。

石田委員長

ありがとうございました。

委員の皆様にはご多忙の中、複数回お運びいただきまして、改めてお礼を申し上げます。実際現場に足を運んでいただいて、空気を知っていただいて非常にきめ細かくかついい実効的な観察ができて、それを助言のほうに反映していただいたものだと思っております。

今の報告書の中に、大抵入っていると思うんですけども、今日改めて報告書を書いて以来こういうこともあったねとか、あるいは他の方のご意見等によって触発されたところもあるかと思っておりますので、感想等ございましたらぜひ

承りたいのですが、いかがでしょうか。

特につけ加えることはないですか。

はい、山本委員お願いします。

山本委員

特につけ加えることではないかもしれませんが、ご意見の中で、私もいわゆる説明、質疑というやり方はディスカッションというのと違いまして、双方向性という意味がやはりもう少し欲しい。ですから、これから進んでいくにしたがって、説明を受ける、あるいは質問をして答えるということではなく、もう少しディスカッションという双方向性をつけて欲しい、そういう形の企画を少し考えたほうがいいなと思いました。

石田委員長

いかがでしょうか。

じゃ、杉尾委員お願いいたします。

杉尾委員

今の点は、私も全く同感で、私の報告書にもちょっと書きましたけれど、説明会なり懇談会なりが事務局からの計画の説明とそれに対する質疑ということに終わってしまって、出席者同士、あるいはその説明する当元局との間の論議の交流というのが全くというか、ほとんどないというのが問題ではないかなと感じました。

石田委員長

私が参加をさせていただいた懇談会は、集まっていたグループが交通事業者の方、エアラインの方、ターミナル会社の方でございまして、そういう意味からすると、説明される側も私も書きましたけれども、ぜひ議論したいというのが見えまして、いいんじゃないかなと思ひまして、お二人の印象とは違うんですけれども、やっぱり懇談会の構成等によって、そういう工夫が必要かなということかなと思いますので、説明と質問ということではなく、ダイナミ

ックに動いていくということが大事ですので、できているところではできているんだろうと思いますので、さらにその努力を続けていただくことかなと思いましたけれども、いかがでしょうか。

土井良委員

私も石田委員長と同じでございまして、懇談会で関連の方が集まっておられるところで聞かせていただきました。大変いい意見が出されておって、レポートにも書きましたけれども、こういうのも広く公開すればいろんな意見が聞けるんじゃないか。この辺は、前回のステップ1よりかなり進んでいるのかなと。今日もお見えになっておられますけれども、だんだん参加される方も増えてきておるとい意味では非常に効果が出ているんじゃないかと思います。

石田委員長

いかがでしょうか。

私、それとちょっとまた違う観点からなんですが、感想があるんですけども、P I活動を始める前に、こういう活動がこういう場面で想定されるだろうという整理してございます。それにのっとってやっていたいでいるわけですけども、なんていいますかね、時間が限られている、予算も限られているということで、これからまだ続いていきますけれども、さらに効率的、効果的にP Iを進めていく必要があるのかなと思うんです。そういう観点からすると、当初のところこういうのが書いてありますから、それは無批判にあまり考えることなくやりますというのではなくて、やっぱり素直に反省すべきところは反省する。私もちょっと書きましたけれども、展示のオープンハウスに行っただんですけども、展示等にはそれなりに工夫をされている、あるいははっぴを着てられたかな、のぼりも立っている、うちわなんかも配られているんですけども、なかなか一番人通りの多いところで、そこで待ち合わせをして座っておられる方多数おられるんですけども、なかなか来ていただけないとかそういうところもありまして、なかなか会場の借り上げ料も高いというのも聞きましたので、そういう意味では非常にいい場所だと思いますけれども、さらに来ていただけるような工夫をすとか、あるいは同様のところであまり効果がな

いようなところについては、限定的、選択的にP I活動を見直すということもあっていいのかなという気が若干いたしました。

ほかにご意見ございますでしょうか。

それと質問なんですけれども、ステップ1では意見を監視のたびにすぐ出させていただいて、それはそれ以降のP I活動にすぐさま取り入れていただいたんですけれども、今回も引き続きしていただいたということで、確認ですがよろしいですか。

県

はい、させていただきます。

石田委員長

ありがとうございます。

ほかに意見等ございませんでしたら、ありがとうございました。

それでは、ただいまより本日の審議事項でございますけれども、P I実施結果に関する評価についてお諮りいたしたいと思えます。P Iの実施主体であります福岡空港調査連絡調整会議よりP I実施結果についてのご説明をお願いしたいと思います。

神谷企画監

福岡県の神谷でございます。

先ほど、事務局からもご案内がございましたように、本来ご説明いたします西村理事が今日所用で欠席いたしておりますので、私のほうから本日説明させていただきます。着席させていただきます。

それでは資料に移ります前に、まず概略の流れをご説明させていただきます。

今回のP Iステップ2につきましては7月10日にP Iレポートを公表いたしております。あわせまして、意見募集を開始いたしまして、7月から8月にかけてシンポジウム、説明会、オープンハウス、懇談会、見学会、あるいは大学でのパネル展示などの催しを実施させていただきます。また、9月にはいろいろな団体、あるいは学校、あるいは自治体等々からの要請がござ

いまして出前講座といいますが、出前の説明会の実施も行っております。あわせて、市役所の各区役所でのパネル展示ですとか、追加でのオープンハウス等も開催いたしております、意見収集に丁寧に努めてまいったところがございます。意見の受付につきましては、当初8月末といたしておりましたけれども、今申し上げますように、9月に前出説明会等々のご要望があったということで意見の収集につきましては、9月いっぱいまでとさせていただきます、あわせてオープンハウス等を追加で開催させていただいたところがございます。また、10月26日には9月30日を一つの区切りといたしまして意見を集約いたしまして、連絡調整会議としての考え方を取りまとめましてそれを寄せられたご意見とそれに対する考え方ということで、連絡調整会議幹事会で決定いたしまして、10月31日にはホームページ等に掲示いたしまして、一般の皆様方に公表いたしております。この時点では、1,344名の方から3,888件のご意見をいただいております。これにおきましては、参考資料、分厚いほうでございますけれども、これの中ほどになりますけれども、中ほどに4の10と下に番号を振ったページがございますけれども、その右ページ5に福岡空港の総合的な調査に係るPIステップ2に寄せられたご意見とそれに対する考え方というところにまとめておりますけれども、この考え方についての意見募集によってお寄せいただいたご意見につきましても、参考資料の5福岡空港の総合的な調査に係るPIステップ2に寄せられたご意見とそれに対する考え方の一つ目と二つ目の項目になりますか、にまとめております。

それから、考え方についての意見募集によってお寄せいただいた意見につきましても、同じ5の中の最後の項目の中で添付いたしておりますけれども、20名の方から26件のご意見をいただいております。これらの資料のほかには、この5には意見と考え方を取りまとめました10月以降にいただきましたPIレポートに関するご意見もまとめております。これを加えますと、最終的に1,352名の方から3,921件のご意見を今回のPIでいただいております。今回の本編の実施報告書におきましては、これらのご意見も含めて整理いたしております。

また、参考までに申し上げますと、そのほか厚い資料、参考資料編には、公表いたしましたレポートですとか、あるいは催し、いろいろな説明会ですとか、

オープンハウスですとか、こういった催しの実施計画書の概要ですとか、あるいは広報、あるいは催しの活動の結果、あるいは期間中にホームページに掲載いたしました催しの概要などの記録等々も整理しております。また、期間中に有識者委員会の皆様方にご視察、ご監視いただきましたご指摘につきましても、それに対する対応、もしくは対応方針についても取りまとめて、この参考資料のほうに上げさせていただいております。

それでは、実施報告書の本編のほうのご説明をさせていただきます。

まず1ページにつきましては、周知広報の内容でございます、一覧表のとおりでございますけれども、今回は前回から比べますと、特に女性向けの情報誌あるいは国際交流機関の広報誌等々も利用させていただきまして、周知広報を行っております。そこに書いておりますけれども、新聞への広告掲載は5紙、あるいは女性向けのあんふぁんですとか、アバンティ福岡、これ2誌に掲載させていただいておりますたり、ラジオのスポットにつきましても外国人向けの放送、英語、中国語、韓国語、フランス語等でも、P Iの内容について放送させていただいたとか、あるいは国際交流機関の広報誌に掲載させていただいたとか、いろいろな新しい試みもやらさせていただいております。

続きまして、2ページでございますけれども、情報提供及び意見収集についてでございます。これも詳細につきましては、参考資料のほうに整理しておりますけれども、P Iレポートのパンフレットにつきましては、6万部準備いたしまして、各駅等々でとか、街頭での配布ですとか、あるいは県内の中学校、高校、大学、あるいは自治体、あるいは県、市の情報センター、こういったところに配布させていただいたり、あるいは説明会、オープンハウス、こういった催しの中での配布をさせていただいております。

それから見学会でございますけれども、見学会につきましては、当初2回ということで、予定いたしておりましたけれども、応募が多くて好評だったということで、2回追加させていただきまして、4回実施させていただいております。それから説明会につきましては、5箇所を実施させていただいております。それから、懇談会につきましては、4つのカテゴリーで計12回開催させていただいております。オープンハウスにつきましては、7箇所実施させていただいておりますけれども、今回1箇所につきましては県外でもということで、

佐賀県のほうで1会場実施させていただいております。それからあとシンポジウム、それからインフォメーションコーナーの設置ですとか、そういった催しを実施いたしまして、合計1万人を超える方々にこういったイベントにご参加いただいております。

また今回のステップでは、シンポジウムですとか、グループヒアリングなどを新たに実施いたしておりますけれども、ステップ1での実施の経験を踏まえまして、先ほど申しましたようにオープンハウスを県外で開催いたしますとか、あるいは若い人に情報を提供しようということで大学、これは三つの大学でパネル展示を実施させていただいております。

また、連絡調整会議としてホームページを立ち上げておりますけれども、これにもおよそ1万回のアクセスがっております。

また、説明会を実施しますにあたりましては、開催についての告知のビラを全部で5会場で2,500枚ほどつくって説明会等へのご参加を皆様方に呼びかけいたしております。

私どもといたしましては、これらの活動をとおしまして、皆様方に広く情報をお届けできたのではないかと考えております。

それでは、4ページ以降が今回収集いたしましたご意見についての分析ですとか、私ども連絡調整会議としてこれについての判断といいますか、とらえ方になるかと思っております。

それでは4ページの年令ですとか、5ページの福岡空港の利用状況を見ていただきますと、幅広い範囲からバランスよくご意見をいただいているのではなかろうかと考えております。

それから6ページの でございますけれども、PIレポートについての感想です。わかりやすかったですかというご質問をさせていただいてますけれども、わかりやすかったですとか、あるいは普通とお答えいただいた方が約7割となっております。

次の7ページには今回の情報提供の主な内容であります地域の将来像と福岡空港の役割についてと、将来の航空需要予測についての皆様の印象になりますけれども、共に半分以上の方々が必要な情報は提供されるとされております。また、今回提供したレポートの内容につきましては、興味深かったとされた方

が6割を超えてらっしゃいます。

それから駆け足で申しわけありませんけれども、8ページでございます。8ページは記述意見のところがございます。これに記入されたご意見についてでございますけれども、地域の将来像に関するご意見が439件、福岡空港の役割に関するご意見が967件、将来の航空需要予測に関する意見が1,080件、それからPIに関する意見が285件、それから今回のPIステップ2ではございませんけれども、ステップ3以降に関するご意見が949件ございました。それからその他ということで201件ということになっております。

それから10ページでございます。ご意見の内容と連絡調整会議としての考え方を上げております。詳細は13ページから21ページになっております。主な考え方についてご意見と考え方を説明させていただきますが、ステップ2に関しまして地域の将来像439件と申しましたけれども、内容といたしましてはアジアを中心としましたつながりの重要性ですとか、福岡の役割が増すとの意見、また一極集中ですとか地方財政を危惧する意見等がございました。考え方といたしましては、今後も社会経済環境の変化に注意を払いつつも国内外を問わず、交流を拡大し福岡の拠点性を生かしていくことが大事であるとさせていただいております。それから福岡空港の役割について967件のご意見でございますけれども、意見といたしましては今後も重要性を増すとのご意見ですとか、安全や環境、あるいはアクセス、利便性に関する意見等々がございました。これに対する考え方といたしましては、航空ネットワークの拡充、容量の確保、利便性や安全、環境といった点を踏まえて、対応案の検討を進めたいとさせていただいております。

それから、将来の航空需要の予測につきましてですが、これにつきましては1,080件のご意見をいただいております。意見の主な内容につきましては、GDPや都市部の人口増加、あるいはアジアの経済発展に伴い旅客が増加するとのご意見、また人口減少、高齢化などにより減少するのではないかとといったご意見、また人口などの前提条件ですとか、予測制度についてのご意見等々もございました。これに対する考え方でございますけれども、前提条件ですとか、少子高齢化、あるいは予測制度等につきましては考え方を示しますと共に今後

も実際の航空需要の動向等に注目していくこととさせていただきます。

それから次にP Iに関するご意見が285件ございましたが、意見の主な内容につきましては取り組みへの評価ですとか、あるいはレポートがわかりにくいとか言ったご意見もございました。これに対する考え方といたしましては、透明性ですとか、公正性を基本として実施していくと、新たな取り組み等も加えつつ工夫しながら実施してまいります。あるいは内容につきましても、一層わかりやすく工夫したいとさせていただきます。

それからステップ3以降に関するご意見949件ございましたけれども、その中でも有効活用方策など現空港に関するご意見が210件、近隣空港との連携方策に関するご意見が342件、現空港での滑走路増設ですとか、新空港建設に関するご意見が397件ということで、942件のご意見がございましたけれども、考え方といたしましてもステップ3以降での検討ということでさせていただきます。

その他として201件ご意見があったということでございます。

なおご意見のうちご質問に当たると考えられますものにつきましては、その主なものにつきましては、P Iレポートの詳細版に記載している内容も含まれますが、丁寧にお知らせする意味からそれも含めてQ & Aとして取りまとめまして、12月6日にホームページにQ & Aという形で掲示いたしておりますので、ご参照いただければというふうに思っております。

それから、22ページでございますけれども、22ページには意見と考え方のご意見を取りまとめしております。考え方ですとか、取り組みに対するご意見がある一方で今回の情報の内容ですとか、対応方策等のご意見も多くございまして、提供情報事体は認識いただいているのではないかと考えられますが、レポートについての意見の延長線上と考えられるのも多くいただいております。

それから23ページからは、今回のP I活動の実施計画との比較ですとか、分析、あるいは目標を達成をしたかどうか、また全般について連絡調整会議としてどうとらえるか等々の考え方を取りまとめしております。(1)といたしまして、まず実施計画について上げました今回のP Iの基本方針であります十分な周知広報、それから多様で適切なP I手法、それからわかりやすい情報提供と意見等の公表、それから中立公正、それから適切な時間管理、五つの方針に照

らしてどうだったかということについて比較いたしております。

わかりやすい情報提供と意見の公表につきましては、ここではわかりやすい情報提供と意見とそれに対する考え方の公表に分けております。これらについての比較表を27ページから29ページにかけてつけております。

周知広報につきましては、冒頭でご説明申し上げましたように、県、市の広報誌ですとか、あるいはマスメディア、またチラシ配布など幅広く実施いたしております。その結果として1万人を超える方々が催し等にご参加いただきましたし、ホームページでも1万件を超えるアクセスなど多くの方々にご参加いただいたということでございます。適切なP I手法につきましては、催しやホームページに多くの方々にお参加いただけたこと、また24ページの図の13にありますけれども、参加された方々の満足度で普通までも入れますと、65%の方々が満足とされていることになっております。

わかりやすい情報提供につきましては、24ページの下グラフ図14でございませぬけれども、わかりやすさにつきましても、普通を含めましてわかりやすかったとされた方が約7割、それから25ページの図15 P Iレポートの感想で興味深かったとされた方が約6割あるということ、それから今回の情報の中心でございます地域の将来像の福岡空港の役割、それから将来の航空需要の予測についておおむねお伝えできたと考えられます。

それから意見と考え方の公表につきましては、冒頭で申し上げましたとおりですが、その他にも催し物の概要につきまして随時ホームページで掲示しております。

それから中立公正についてでございますが、ホームページを活用させていただきまして、透明性を持って進めさせていただきまして。また、期間中委員の皆様方にもご視察をいただきまして、ご助言につきまして期間中に対応できるものにつきましてはご指摘をいただいた時点で即座に対応したというふうにさせていただいております。

それから適正な時間管理でございますが、7月10日からP Iレポートの配布を開始いたしまして7月中旬からは催しを集中的に実施いたしております。大体7月10日から催しを9月の下旬まで、それから意見の整理につきましては9月30日まででございますが、おおむね当初の適切な時間管理ができてい

ると考えられます。

なお意見収集につきましては、先ほど申しましたように出前説明会等々の関係もございまして、1カ月ほど多く実施いたしております、より丁寧な対応をさせていただいたというところでございます。

これらの結果から、実施計画に沿った活動であったと私どもとしては考えております。

次に、30ページから32ページでございます。ここには今回のP Iの目標といたしました情報が十分に周知されたか、あるいは幅広く意見が収集できたか、またこれらを踏まえた総合的な判断を取りまとめております。30ページの情報が周知されたかにつきましては、冒頭部分でご説明いたしましたようにレポートの配布ですとか、ホームページ、催し等の実施により多くの方々に情報をお届けできたこと、また先ほども触れましたが普通も入れておおむねわかりやすかったとされた方が多いこと、さらに知りたい情報がおおむねお伝えできたと考えられること等から、今回のP Iではおおむね正しく情報をとらえていただき認識いただいたのではないかと考えております。

また幅広く意見が収集できたかにつきましては、31ページの各グラフのように年齢層それから職業、それから空港の利用度などを見ますとバランスもよく幅広い範囲の1,352名の方からご意見をいただいていることなどから、幅広くかつおおむね誤解なくご認識いただいたのではないかと考えております。

最後の32ページには連絡調整会議としての判断を示させていただいております。

ご説明いたしました実施計画の方針との整合性、目標を達成したかどうかなどを総合的に勘案しますと、今回のP Iステップ2につきましては初期の目的を達成できたのではないかと考えておるところでございます。

実施報告書の説明につきましては、以上でございます。

石田委員長

ありがとうございました。ただいまご説明いただきましたP Iの実施報告書や先ほど報告を受けて追加的なコメントをいただきましたけれども、我々の実際のP I活動の現場を実際に見た経験に基づいてこれから評価を行ってまい

りたいと思います。

今のご説明の中にもございましたけれども、P I実施結果の評価をどうするかということを実は昨年になってしまいますけれども、平成17年8月10日に行った第3回委員会において確認してございます。お手元においてあります「P I実施結果に関する評価のあり方について」ということでございます。こういうのを決めておりますので、これに基づいてこれから今説明のあった報告書について評価を行ってまいりたいと思います。冒頭ご紹介のありましたように、竹林委員が欠席でございますけれども、別途意見書をメモという形でいただいておりますので、途中適宜竹林委員のメモについてもご紹介をしていただきながら進めてまいりたいと思います。このように議論を進めてまいりたいと考えておりますがそういうことでよろしゅうございますか。

はい、ありがとうございます。

それでは、先ほど説明されましたもう一度申し上げますと、お手元の1枚紙にありますように、1)「P I活動が実施計画の基本方針に則った適切なものであったか」ということで、それに関しては、(ア)十分な周知広報の実施、(イ)多様で適切なP I手法の選定、(ウ)わかりやすい情報の提供を実施し、収集した意見とそれに対する考え方を公表、(エ)中立・公正なP Iの実施、(オ)適切な時間管理ということが基本方針にのっとった適切なものだったかということについて、こういう観点から評価をするということになってます。

2)「当初の目的が達成されたか」ということでありますが、ステップ2の目標といたしましては、「地域の将来像と福岡空港の役割」、「将来の航空需要の予測」について情報を共有し、意見を十分把握することということでございますので、「情報が市民等へ十分に周知されたか」、「市民等から幅広く意見が収集されているか」とかがキーポイントになりますのでよろしく願いをいたします。

どなたからでも結構でございますが、いかがでございましょうか。

山本委員

質問でもよろしゅうございますか。

石田委員長

よろしゅうございますけれども、どうぞ。

山本委員

今回、出前講座をなさったということでこれは私自身はどのような形か拝見する機会がなかったものですから、少し事務局のほうからご説明いただければと思います。

石田委員長

お願いできますか。

神谷企画監

それでは説明させていただきます。出前講座につきましては、いろいろな自治体、団体、具体的に言いますと商工会とか、あるいは学校、そういったところからたまたまいろいろなテーマで研究されている中で、議論されている中で、空港問題について空港の調査をやっているということで、説明していただけないかのご要請があったということで、私ども出かけてまいりまして対応させていただいたということで、非常に熱心にご質問もございましたし、ある会場では1会場100人ぐらい入る会場でございましたけれども、その入りきらずにサテライト会場までつくられまして、テレビで中継されまして、テレビでご質問があったとか、9月に入りまして6回ほどやらせていただいております。今後も非常に私どもが5回県内各地でやりました説明会等と比べましても、要請型ということもございまして熱心なご議論がございましたので、今後こういったものを増やしていければなと考えたところでございます。

石田委員長

よろしいですか。

山本委員

そのうち私、学校ということなんですが、どのぐらいの年齢層の学校だった

のでしょうか。小中学校、高校とか。

神谷企画監

いや、学校といいますか、各種学校といいますか。そういったところでの要請があって説明させていただいたということでございます。

山本委員

結構です。

石田委員長

出前講座をやってるよというのはどういうメディアといいますか、チャンネルで皆さんにお伝えしたんですか。

神谷企画監

一応、このP Iにつきましては、いろいろな先ほど申しましたように新聞等々で掲載ですとか、マスコミを使ってあれしていただいたのと、それから各自治体にもご通知申し上げてましたので、各自治体さんでいろいろおやりになっている政治学級ですとか、そういったことから反応があった。あるいは出前講座をお持ちになっている各市町村、県からアクセスがあったということでございます。

石田委員長

いかがでしょうか。この件に関しては、非常に熱心に参加していただいたということでありましたので、多分、もうちょっとホームページ使ったり、いろいろな広報誌、出前講座をやっておりますので喜んで行きますということを積極的にPRされると、さらにいいのかなと思いますのでいろいろな制約があるかと思いますが、ぜひ前向きのご検討いただければなという感想を持ちました。

神谷企画監

それを検討させていただきたいと思います。

杉尾委員

もう総合的な話をしているですか。

石田委員長

はい。

杉尾委員

評価の項目ということで評価の1と評価の2、いわゆる実施計画、基本計画適切であったかということと、目標は達成されたかと。総論的に申し上げまして、私今回より幅広い市民の参加が進んでいると、いわゆるP Iという手法がやっと定着してきたかなという印象を持っております。ただ各論的には若干いろいろな問題がイベント等含めましてあったのではないかと思います。それは今後の論議の中で訂正していただくとか、次の段階で直していただければいいと思いますが、一つだけ申し上げますと、例えばシンポジウムでございますが、私出たんですが、いわゆるシンポジウムとしての内容が十分であったという点で、あまり言いにくいんですがこれは講師の問題も多々あったんじゃないか。論議されている内容がやはり会場のいる人たちの間に若干乖離があったのではないかと印象を私は受けました。こういうものは回数を増やしていろいろな取り組みをなさたらどうかなという印象を持ちました。提供されている情報の内容、質が適切かどうかということについては、私は必要な情報は提供されているのではないかと思います。アンケートなどの評価が高いのもそういうことだろうと思いますが、これで十分かと言いますと、あるいはどうなのか何かかけているものはないのかという視点からの再検討は絶えずやる必要があるのではないかと思います。

石田委員長

いかがでしょうか。土井良さんお願いいたします。

土井良委員

私、ステップ1の同じ報告書を持ってまいりました。これと比較しておるのでございますけれども、いわゆる意見を寄せられた方の属性等をみさせていただきますと、ほぼ変わらない。ということで、そういう意味では周知広報の実施であるとか、あるいは今回余計そうなんですけれども、多様な適切なP I手法選定から言ってみれば、非常に良かったのではないかと考えております。実はその次何ですけれども、P Iレポートはわかりやすかったかというところと、それから参加した催しの印象はいかがでしたかというところは実は普通まで入ると少しこれは下がっているんです。これちょっと私なりになぜ下がっているのかというのをその辺はどのようにお考えなっているか、まずご意見をお聞きしたいと思います。

石田委員長

お願いいたします。

神谷企画監

属性等につきましては昨年の反省といいますか、経験も踏まえまして催し等若い人向けの大学のパネル展示とか、あるいは女性向の広報誌等々で広報させていただいたというのもありますし、わかりやすかったですかという質問につきましては、やはり今回内容が非常に需要予測ですとか、専門的な内容もございましたので、そういったのがあったのかなというのが私の印象でございます。

石田委員長

よろしいですか。

土井良委員

私も実は今回内容についてはP Iレポート、非常に専門的で客観的であるということで非常に難しい内容だった。ある意味には、これだけの人が一応普通までの評価をしているということは、それなりにわかりやすかったのかなと思っています。逆に言うと、ますます今後難しくなる点が、次のステップで増え

てくると思います。わかりやすいという意味では、もう少し工夫をいただくことも必要かなと思っています。

石田委員長

ありがとがとうございます。実は私も同じ印象をもっておりまして、需要予測につきましては、辛うじて及第点かなという感じです。5割を若干超えてるぐらいです。需要予測というのは非常に難しく、なかなかおわかりいただきにくい面があるうかと思うんですけれども、その辺これからどうしていくんだらうかというのが非常に大きな課題かなと思っていまして、これからのステップ3でどういう方向が考えられるかということ、その効果と影響はどうかということ、さらに専門性なんかも高まっていく中で、きちっとおわかりいただける、共有できるレポートをつくっていかねばいけないわけです。そういうときのレポートのつくり方とか説明の仕方というのは、実は課題として大きく残っているのではないかという気もしますので、半分超えてますから、及第は及第かなと思うんですけれども、ちょっと厳しめの意見も言わんといけんかなと思っているんですけれども、実施側としてはその辺どのようにお考えか、ちょっとお聞かせ願いたいんですが。

鈴木部長

わかりやすくということで、随分努力はしたつもりなんですけれども、個人的には需要予測みたいな仕事はしたことがあるので、私も着任していろいろなところで工夫がされていると思っております。やはり、計算した、何とかの係数がとか、何とかの値がということではなくて、いろいろな図表でわかりやすくなっていると思います。ただ、今回全部やるべきことができたとは思っていませんで、最大限のことをやったがまだまだほんとうはやることあるんだろうなと思っていますので、ステップ1、2、3と続いてきますので、一步一步上がっていききたいなという感じています。

石田委員長

多分、説明の仕方といいますか、全体の進め方に依存する部分があるんだら

うと思います。専門的な知識がないと、十分に理解ができないというのが実際だろうと思います。先ほど、杉尾委員がシンポジウムのということをおっしゃいましたけれども、やっぱり主催者が説明されているわけです。この非常に不幸な状況だと思うんですけれども、やはり行政のやられていることには、ちょっとつばをまゆにつけて聞こうじゃないかというところが正直なところだと思います。ですから、例えば第3者的な総流動のことなんか結構詳しいようなNPOの方とか、しいて言うところちょっと厳しめの意見をもたれている方なんかと公開の場で、ディスカッションをしてみるとか、そういうことによって全体のクレディビリティ、信頼性が上がってくるみたいなそんなことも考えるべきかだと思います。個人的な思いつきぐらいの意見ですので検討していただくだけで結構でございますけれども、その辺のこともただ単に説明するということでは限界みたいなものがあるかと思いますが、その辺の全体の進め方というのは、今後問われていくのかなというようなことも感じましたので意見として申し上げたいと思っております。いかがでしょうか。

ほかに何かございますか。

山本委員

今の需要予測の点でございますけれども、やはりどのように考えてもいわゆる仮定というものの上に立つわけですので、それがやはり皆さん方にはどうしても行政側からいい方に向けての仮定をしてつくってある予測という見方をされると思われます。物事は暗くより明るく考えたいのが当然ですから、次についてということで、善意で書いたことであってもそれを要するに行政側に有利につくられたという印象をお受けになるというところがこの難しいところであろうと思うわけで、今委員長おっしゃいましたけれども、今後もそういう点はディスカッションのテーマの中に入ってくると思いますので、反対の意見をお持ちの方を含めてこの点は繰り返し討論されてもいいことではないかと私は思っております。つまり、今回でこのステップは終わったんだよということではなく、需要予測という問題は、やはりいつも出てくる問題としてとらえていって、この先進めていくのがいいのではないかと考えています。

石田委員長

違う前提のもとでもう1回需要予測をやり直さないということですか。

山本委員

いえ、そうではなくて、この前提で結構なんですけど、この議論に対する問題はいつもステップ2でこの議論で終わったというわけではなく、これが常に繰り返されるといえることが当然前提としていいのではないかと考えております。

石田委員長

そういう意見が立った場合、ご質問があった場合丁寧に対応しないということですね。そういうことですね。はい、わかりました。ありがとうございました。

土井良委員

今の件に関連してですけれども、私空港関連者ということで、空港に関連してあるエアラインだとか、あるいは旅行代理店、そういう方がいらっしゃる懇談会に行ったら、非常にこのレポートほめてあるわけです。ということは、専門的な見方をされるとそれなりにきちっと見ておられるので、そういう意見があることをオープンにして皆さんにお知らせするというのも、中立性、公平性からいっても、必要なことだろうと考えております。そういう努力もぜひしていただければと思っています。

石田委員長

ありがとうございます。そういうところは非常に大事だと思いますので、ほかにないですかね。

全部で5カ国語で放送されたりとか、若者向け、あるいは女性向けのタウン誌にも出されたりとか、あるいは先ほど議論しました出前講座、新しい試みもされたということで、新しい試みをいろいろされているんですけども、さっきご説明いただいたものでは、ほんとうにどういった手ごたえを感じられたかというのが説明不足もあったかなと思いますので、その辺感想をお聞かせ願えれ

ばありがたいんですが。

神谷企画監

新たな試みということで、あるいは若い人ターゲット、あるいは福岡にお住まいの外国の方々ですとか、あるいは前回少なかった女性の方々をということで、いろいろな催しをやっておりますけれども、ラジオの放送ですとか、国際交流機関の広報誌等に掲載したということで、どれぐらいの反応があったというのは非常に効果の測定が難しいところがございますが、あえて申し上げますと、例えば女性誌に掲載したということで親子連れの空港見学会の申し込みがちょっと多かったのかなということで、追加もさせていただいておりますし、申し上げますようになかなか大学につきましても、なかなか皆さん方学生さん、一度石田先生がお見えになったときにまいりましたけれども、素通りをされたということもございますので、職員を配置してパンフレットを配ったりはさせていただいておりますけれども、今後もこういったことといたしますか、属性から見ますと男性が多かったりということがございますので、続けていきたいなと考えております。

石田委員長

県外、佐賀県で説明会を始めてされましたが、特に変わった点はございましたか。

神谷企画監

佐賀県は高速道路の佐賀大和インターから車で5、6分ぐらいのところにあります大きなショッピングセンターがございますけれども、こちらで二日間、土曜日曜させていただきましたけれども、場所柄といいますか、私も実際行きましていろいろお話をさせていただきましたけれども、非常に福岡空港はよく利用をしているということで、返って反応が高かったのかなというか、ただなんで佐賀県で福岡空港なのと言われた方もおられますけれども、非常にやっぱり近郊の方々が福岡空港を利用されているんだというのが、印象深く思えました。

石田委員長

今のに関連してなんかご意見等ございますでしょうか。

山本委員

今回、ラジオ放送、英語、中国語、韓国語、フランス語とやっていらっしゃるといふことと、資料の中には英語の資料をつけておられますが、これに関して特に外国の方から何らかの反応があったということはございますでしょうか。例えば、アンケートの回答があったとか、別途資料が欲しいということがあったという事実はありますでしょうか。

神谷企画監

私どもが承知していますかぎり、反応といいますか、ご意見、あるいはご質問は残念ながら聞いておりません。

山本委員

これは特にやはり中国や韓国の方がターゲットになるかと思うんですが、粘り強く続けていただきたい。アジアにとって我々は玄関口だというアピールをしているわけだけれども、福岡空港はどう受け止められているかというのはやはり欲しいところだと思うので、粘り強く続けていただきたいと思ひますし、できる限り回答をいただく。つまり向こうからの反応を返してもらえる方法をこれからも探っていただきたいと思ひます。

石田委員長

私も全く同感でございまして、大学でのパネル展示を見に行かせていただいた際、パネルを眺めてくれるんですけどもなかなかパンフを取ってくれない。説明しようと思ちかまえているのになかなか質問してくれない。なかなか思いを伝えるのは大変だと思ひました。ある意味では、市民の皆さんももうちょっと主体的に考えてくれてもいいのではないかと、若いんだからしっかりしてとか言ってやろうかなと思つたぐらいの気持ちになつたんですけども、今、

山本委員が言いましたように、やっぱり粘り強く続けるということが、いろいろな意味でアピールするということから非常に大事だと思いますので、それは全く同感でございますので、残念ながら反応がない、じゃ即座に中止ということにもならないじゃないかと思っておりますので、そういう中で、きちっとすべきところはしていただければと改めて思う次第でございます。

どうぞ。

杉尾委員

その件について、私のほうから一つだけつけ加えさせていただきますと、いわゆる放送内容が双方向性がないのです。こちらからのお知らせだけになってしまっているから、今そこに何らかの双方向性を持たせるような工夫がいるのではないか。情報の提供が。そういうことを感じます。

石田委員長

これスポットですよ。どうすればいいのですかね。

杉尾委員

結構長いですよ。これ。プロが読んだら、1分ちょっとぐらいかかるのではないかと僕は見ているのですが、今、福岡でも地上波のデータ放送が始まりました、テレビ局でも、それぞれデータが取れるようなのを持っているんです。そういうところのデータを一部借りて双方向でやったらどうかとかいろいろなことが、大体こういう外人の方がどれぐらい福岡空港の問題に関心を持っているのかとか、そういうやつはある程度すぐ出てくると思うんです。ただ、今の放送内容を日本語、英語、フランス語、たくさんLOVE - FMというところで、やられているみたいですがけれども、ただ単にお知らせに終わってしまっているから、何らかの双方向のきっかけをつくる工夫がいるのではないかと思います。

石田委員長

ありがとうございます。何かございますか。

神谷企画監

今後の検討課題とさせていただきたいと思います。

石田委員長

ほかにいかがでしょうかね。どうぞ。

土井良委員

先ほど県外の佐賀のお話がありましたけれども、アクロスの説明会、たぶん熊本か日田か、どちらかがぜひやってほしいとおっしゃっておられました。思いのほか、やっぱりエリアが広いんだろうと私は思っていますので、その意味でも工夫をお願いしたいと思います。

石田委員長

アクロスの説明会に来られた方。

土井良委員

日田か熊本かどっちかだった。ちょっと忘れましたが、ぜひやってほしいとご意見を出されました。

石田委員長

そういうのはあれですよ、先ほどの出前講座、県外でもOKなわけですよ。

神谷企画監

要請がございましたら、可能かなと思います。

石田委員長

ありがとうございます。

ほかにいかがですか。

そろそろ竹林さんのご意見も紹介いただければと思いますが。

事務局

はい、それでは竹林委員から出されましたご意見につきましてご紹介させていただきます。資料がお手元あるかと思えますけれども、意見の部分だけ読ませていただきます。

ご意見3点に分かれておりまして、まず1点目はP I手法についてということでございます。シンポジウムやオープンハウス、外国人向けのパンフレットも用意されるなど、P I活動を広く市民・関係者に知らしめる努力をされていると認められますし、また情報の提供もある程度のレベルには達しているものと報告書に示されたアンケート結果からは認められます。しかし、説明会への参加者数が伸び悩んでいることに加え、学生や若い人の関心はいかがなものか、と若干気になる報告が見受けられます。ホームページのヒット回数も日当たり70件程度とホームページとしては少ないと思います。情報の多くが街頭での配布冊子になっている点は改善の余地があると思います。また、意見の聴取に関しても郵送が多いというのが気になります。ホームページからも可能なはずですが、ホームページの質問のページがわかりにくいのではないのでしょうか。

今後はより効果的に情報を発信するために、ホームページの構成の再考、オープンハウスの効果的な設置などを検討されることを望みます。

ということで、これは先ほど評価項目が紹介されましたけれども、その中でいえば1)の(イ)の多様で適切なP I手法の選定という部分に関係するご意見ではないかと思えます。

それから(2)情報のわかりやすさについてということですが、結果を見ればおおむね達成されたと結論づけることができます。需要予測という非常に専門性が高いことに対して、市民や関係者の方々にとって知りたい内容がおおむね記されていた、と評価するものが6割を超えているということからも当初の目的はほぼ達成されたといつてよいでしょう。ただし、依然として2割強の方が内容に不満を感じていることは見逃せません。寄せられた自由意見などに記されている「不明確な点」についてより詳細に説明することが必要であると考えます。このとき、詳細に説明すればするほど読み手にも専門的な知識が要求されますので、適宜掲載するパンフレットやホームページに注釈を付ける、出前講座・市民講座などを設けるなど、工夫がいるかと思えます。

この意見は評価項目でいけば、1)の(ウ)の情報のわかりやすい提供というところになるかと思えます。

最後3点目、寄せられた意見についてということでございますが、「アジアの玄関となる」などアジアとの交流が盛んな福岡ならではの意見が見られたことは興味深く、それだけでアジア諸国が身近な存在なのでしょう。こういった人々の情報ニーズに答えるために国際線に関して、近接距離の需要についてより精査され、説明されることが望ましいと思えます

需要推計の提示の仕方ですが、従来よくあった一つだけの予測値を示すのではなく、考え得る最良の状態から最悪の状態まで幅を持った推計値を示されたことは意義深いと思えます。特に最悪の状態の需要を気にされている方が多いと思えますので、最悪の状態が実際どういった経済状態を想定したものなのか、「失われた10年」という表現ではなく、くどいほどに設定状況を詳細に示されたほうが今後はよいかと思えます。

この意見につきましては、評価項目でいえば、2)当初の目標が達成されたかという部分に相当するのではないかと思えます。

竹林委員の意見は以上でございます。

石田委員長

ありがとうございます。このご意見に対して何かコメントとかございましたら、お願いしたいと思えますがいかがでしょうか。

的確なご意見いただいていると思えます。ホームページもそうですので、構成の再考と書いてございますけれども、なかなか難しいかもわかりませんが、やっぱり、せっかくやる以上はより効果的、効率的にやっていただければと思えます。それと、情報のわかりやすさについてということなんですけれども、先ほどは肯定的なところの話をさせていただきましたけれども、今回は竹林先生は依然として2割強の方が内容に不満を感じていることは見逃せませんという。同じデータですけれども、ちょっと違う見方をされておられて、この指摘も重要だと思えます。そこで、ご質問なんですけれども、この内容に不満を感じているということと、その不満の内容が具体的にどういうものであろうかというふうなことが、もしわかればP Iレポートを改善していく上でひじ

ようにいいとおもうんですけども、その辺はどうですか。

県

内容に不満があるという方は、アンケート項目のほうにつけてらっしゃいますので、そのどなたがどういう意見と組み合わせるかと詳細に分析をしないとちょっとそこはすぐには分析しかねる状況でございます。

石田委員長

でも、しようと思えば、お金とちょっと手間が大変ですけどもしようと思えばできなくもないかな。

県

意見をお出しになった方の匿名性を確保しておりまして、実は意見を出しやすいようにということで、お名前まで書かなくていいですよとしてますので、ただお出しになった方は我々の方でご意見等整理をしておりますので、そこをされた方のところを追尾していけば若干お金と時間がかかるかと思いますが、可能ではあります。

石田委員長

プライベートにかかわらない範囲で努力をしていただければと思います。

それと、あとちょっと気になるのが、最良の状態から最悪の状態までと竹林さんは書いているんですが、最良というのは最も量が多いということですか。数字が何が最良で何が最悪か立場によって変わるんじゃないか。

事務局

竹林委員に確認したわけではございませんけれども、これはおそらく経済的な状況を意味してあるのではないか。

石田委員長

経済的な前提条件が……。

事務局

要するに経済成長が高い状態とそうでない状態。

石田委員長

わかりました。ありがとうございます。

ほかにいかがですか。

寄せられたご意見とかご質問を拝見いたしますと、ほんとうに高度に専門知識を持っておたれる方もおられますし、真摯な不安といえますか。内容的にはすごいハイレベルのご意見ばかりだなと思って、そういう意味では、非常に高く評価できると思うんです。だから、届く人には届いているという意味で。ステップ1でも、問題になりましたけれども、イベントに参加してくださった方が1万人以上おられる、あるいは竹林さんにすると若干ホームページのビジット数は1日当たり70件で少ないんじゃないかなということですが、それでも1万回以上もアクセスしていただいている。これをどう考えるかということで、永遠の課題と思うんですけれども、結論は出ないとは思いますが、今までステップ1、ステップ2と進んできた中で、ステップ3、ステップ4とこれから進んでいく中で、さらに届いている人の数を増やすという努力は必要だと思います。そういう意味では明確にこれ以上はよくて、これ以下はだめだよ、ということではできませんし、そういう形の評価はできないと思うんですけれども、永遠の課題として、やっぱり届く人の数を増やすことについて、努力をしていただきたいなと思いました。届いた方はすごいなと思っております。やればやるだけのことはあるんだろうということが出ているような結果だと思いました。そういう感想を持ちました。

どうですか。

杉尾委員

最後にもう一点だけ、ちょっとつけ加えさせていただきますと、いわゆる説明会と懇談会と全く同じレベルの話になってしまっているんです。ここも改善されたほうがいいと思います。懇談会に行っても、やはり今までの調査報告み

たいな話をずうっと説明会みたいな話をされて、そこの質疑で終わってしまう。それからさっき私が申し上げましたちょっと言葉足らずでシンポジウムで何をあなた不満に感じたのとお思になっている方が入ると思うんで、率直に申し上げますと、このシンポジウムのテーマは「福岡の将来像と福岡空港の役割」ということだったんですよ。ところが福岡の将来像について、きちんとした話をしているかと思うと、そうではなくて、利用の実態みたいなところでそれぞれの方がお話ししたり、福岡空港の役割に至っては、これではシンポジウムがなりたっていないんじゃないかとそういう点に僕は不満を感じまして、これはせっかく、皆さんが福岡の将来どうなるんだろうか。専門家の先生方、どういう意見を持ってこられているのかと思っているんですが、なんか司会者はそういう意識があるんですが、ほかの方とのコミュニケーションがうまくいかないものだから、そういう問題が起こってしまっていて、きちんとタイトルを掲げたら、それに対して対応するような形をぜひ今度考えていただきたい。そういうことでございます。

石田委員長

はい、ありがとうございます。

それと、説明会と懇談会について確かに説明内容同じなんです。同じパワーポイントを使われているので、その辺変えたほうがいいということですが、どうですか。いかがですか。

ちょっと議論していただければ、ありがたいなと思います。

山本委員

私は女性を対象にした懇談会に参加させていただきましたが、考え方が二つあると思うんです。その方たちにとって興味のあるテーマにして懇談をしていたくというのが本来の懇談会なんだと思うんですが、おそらくやる側にとってはどこにも同じだけの公平な情報を提供しなければいけないということがあって、結局同じことをやってしまうと。ここは私は割り切ってしまうと懇談会の対象となる方々にとって興味のあるテーマということを中心に構成した説明でよろしいのではないかと。公平を欠くとかいうことは、資料はお配りするわ

けですし、ほかにも出ていただきたければ来てくださいという呼びかけをすれば足りるので、懇談会に関しましてはある意味でそのターゲットというか、その主体となる方々にあわせたテーマの選び方、説明の仕方をお考えになったほうがいいかなと思いました。女性ですから、やはり私が参加させていただいたのは女性なんですけど、要するに、転勤族の方もいらっしゃる、主に主婦で旅行に行くということを観点に考えてらっしゃる方もあると。そういう方々に向けて経済とか、いろいろなものからの推計値とかを説明されても、議論の最初が口火を切るのが皆さん大変苦労していらしたと思うんです。司会者の方が非常に工夫しておられましたけれども。やはりこういうときの説明の仕方というのはちょっと変えてもいいのではないかなと。実際観光需要とかそういうことから始めてもかまわないだし、そういう公平性ということは、やはりケース・バイ・ケースではないかと思いました。

石田委員長

いかがですか。

懇談会もそうですし、出前講座も来てくださいと要請があるわけです。そういうコンタクトがあったときに、どういうことについてお知りになりたいんですかということ投げかけるというのは可能ですよね。ですから、あまりコストがかからずにさらに充実できるのかなと思います。とにかくPIレポートというのはほんとうに盛りだくさんの内容で説明の時間が幾らあっても足りないぐらいの内容ですから、その中から適宜選択すれば、さらにカスタムメイドのいい懇談会、あるいは出前講座になるのかなと思うんです。そのときに、これ私が出席いたしました懇談会ででてきた意見ですけれども、もうちょっと早めにレポートをください。そうすると、それぞれの組織なり、会社で議論を深められるのでというご意見がございまして、もっともだなと思いました。ですから、そういう中で、やっぱり手間をかけるというところからいい関係とか、信頼感とか、より高質のコミュニケーションというのが起こってくると思いますので、その辺ぜひ大変かもわかりませんが、手間をかけることをいとわないということかなと思いましたので、ぜひよろしくお願いをしたいと思います。

いかがでしょうか。

もし意見もないようでしたら、評価ということをしていただきたいと思うんですけれども、今回のP Iについては連絡調整会議のほうからは、自己評価としてはいいですよと報告がございました。そのことに対して、議論してまいりました。皆様のご意見をうかがいますと、P I活動が実施計画の基本計画にのっとり、適切に行われているかどうか、あるいは当初の目標、十分な情報の周知、幅広い意見収集が達成されているかどうかということに関しては、合格点を出していただいたんだろーと思います。そういう意味では、このステップ2というのは、良好に実施することができているんだろーと思います。ただし、極めて良好であるというわけにはちょっといかんのかなと思います。それは例えば、需要予測のところ、努力をされたんだけど、やっぱりわかりにくい、というご意見もありましたし、ホームページの問題とか、2割強の方が不満を感じていることもありますし、その辺の分析も必要だろーということがありました。あるいは、出前講座、あるいは女性、外国人、若者への働きかけという今回新たに始めたことについても、まだ明確に効果が実感できるというところには至ってないという感想もございましたので、でも、そういう方々は非常に重要なステークホルダーでありますので、粘りづよくという発言も山本委員からいただきましたけれども、そういうことも重要でしょうということでございます。

シンポジウムについては、もうちょっと内容を練ったほうがいいのではないかとごいけんもいただきましたし、ラジオ放送についても双方向性ということがもう少し工夫できるのではないかとご意見でございましたし、懇談会、説明会、出前講座リクエスト等に応じるもの、あるいは人数が少ないということもあって、非常に高質な議論が期待できるものについてはテーマ性というものをもうちょっと重視して、個別の対応というのを考えたほうがいいのではという意見もいただきました。ただ、それとこういう情報とか活動とかが届いた方からは非常にいい議論をしていただいておりますので、そういう意味での双方向性とか、コミュニケーションとか十分成立していると思います。ですから、今いただいた議論はある意味では届く人をどう増加させるかということに尽きるだろーと思うんで、そういうことについては幾らやってもきりが無い

のかもわかりませんが、満足することなくさらに頑張ってくださいと、激励といいますか、俗な言葉で言うと、尻たたきかもしれませんけれども、そういうことだろうと私自身思っております。

ですから、委員会として連絡調整会議に送付する評価書については、今申し上げましたように合格点です。P Iのステップ2はいいです。当初の目標を果たしました。あらかじめ設定した評価基準にしたがって合格です。ただし、よりよいP Iとステップ3、ステップ4で続けるためには幾つか改善すべき点があります。そのことについては繰り返しませんけれども、先ほど申し上げましたことを、あるいは速記録をつくっていただいておりますので、そういうものをもとに取りまとめたいと思います。私のほうで案をつくらさせていただきました、また委員の方にチェックをしていただいて、作成をしてお届けするというのにさせていただきたいと思いますが、そういう方向でよろしゅうございますか。

(「異議なし」の声あり)

はい、ありがとうございました。

それでは、これでP I実施結果に関する報告評価の審議を終わりたいと思いますが、何かありますでしょうか。もうないですね。よろしいですか。ありがとうございました。

鈴木部長

九州地方整備局の鈴木でございます。

石田委員長ほか委員の皆様には大変お忙しい中、ご審議いただきまして、どうもありがとうございます。連絡調整会議幹事を代表した形でまずは深くお礼を申し上げたいと思います。

この委員の皆様からのアドバイスを受けまして、先ほどでました県外でのイベント、あるいは40歳以下の方からも、全体の半分の意見が40歳以下の方、あるいは女性からも意見があったということで、随分ターゲットを絞った結果、いろいろなところが向上してきたのかなと思っております。ただ、石田委員長

から今合格点と言うお言葉があり、大変ほっとしておりますけれども、まだまだ改良すべき点はあると、私ども十分認識をしておりますので、今後とも本日もいただきましたアドバイスを踏まえながら、より充実したP Iを行っていきたいと思っております。こういったことがいい公共資本づくり、健康づくり、あるいは地域のための貢献につながっていくのかなと思っております。

今後の進め方でございますが、評価書をいただきましたならば、連絡調整会議を開催いたしまして、ステップ2の終了の可否についてP I実施主体といたしまして、判断をさせていただきたいと思っております。

委員の皆様方におかれましては、私どもが行うP I活動に関しまして、今後とも引き続きご指導を賜りたいと思います。

改めてお礼の言葉とさせていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

石田委員長

議事次第によりますと、最後にその他と言うのがあるんですけども、何かございますか。

事務局からもございませんか。

事務局

事務局のほうから事務連絡をさせていただきたいと思います。

次回の本委員会の開催予定でございますけれども、福岡空港調査連絡調整会議のほうの日程、ここの作業の進捗状況によりまして、次はステップ3の実施計画になるかと思いますが、そちらのほうを見ながら、また委員の先生方にスケジュール調整をさせていただきたいと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

連絡事項は以上でございます。

石田委員長

今の事務連絡に対して何かございますか。

では、ステップ3は、1, 2と積み重ねてさらに難しくなるんだろうと思

ますので、ぜひよろしくお願いをしたいと思います。

それでは特にないようでございますので、以上で議事を終了したいと思います。

今日はどうもありがとうございました。

事務局

それではこれを持ちまして、第6回福岡空港調査P I有識者委員会を終わらせていただきます。

なお、傍聴の方々にお知らせいたしますけれど、お配りいたしましたアンケートの調査票につきましては、出口付近に回収箱を用意しておりますので、そちらのほうに入れていただきますようお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。